

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201971		
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		
事業所名	グループホーム おきつの家 Bユニット		
所在地	静岡市清水区興津中町 1134-1		
自己評価作成日	令和元年12月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度、6月においてお一人の方を当施設で看取りを行いました。ご家族には大変「喜ばれ我々もやりがいがありました。看護師は常駐していないので、ご家族の方で24時間訪問看護ステーションと契約をして頂き常に医師と連絡が取れる状態であれば看取りを今後も取り組んでいきたいと思っています。現在進行形で1名の方がこの状態でおられます。しっかり取り組んで行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年4月に2ユニット目をオープンし、日勤も配置できるほど体制も落ち着きつつある一方で、管理者は着任1ヶ月に満たず、シフトに入りながら、利用者や職員とコミュニケーションをとって一人ひとりを把握している状況です。現在、理念に基づく具体的な取組みはないため、法人理念をもとに事業所理念を職員と考えていきたいとしています。そんな中で取組んだ看取りは、医師の支えも得て無事お見送りでき、一つ階段を上った感があり、新管理者ともども職員の「自信がついた」との言葉に突っ込んでいます。昨年の周年祭は100名以上が集まってくれたとの地域からの応援を忘れず、新体制のもと、現在中断されている祭り再開が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、管理者を含めすべてのスタッフに提案をしていただき、その上で決定しております。それを基に運営をしていく事で合意をしています。	管理者は着任1ヶ月に満たず、利用者や職員とコミュニケーションをとって一人ひとりを把握している段階であり、事業所として理念について具体的な取組みはおこなえていない状況にあります。法人理念をもとに、事業所理念を今後職員と考えていきたいとしています。	目指すべき方向性を明確にして、職員への意識づけが成されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とは苗や旅行のお土産をもらうような関係を維持しております。近隣の団地の方々による定期的にボランティア参加や、保育園から子供たちの慰問等の交流ができています。	立ち上げの時から連合会長にお世話になり自治会の会合出席や地域防災訓練にもつながり、円満な関係を築いています。年2回、保育園児の演舞披露もあり、また近隣からは聴覚障がいがあるも、清掃ボランティアとして週に1度定期訪問くださる協力者がいます。	興津地区から通う職員が3分の2ほどになり、今後の交流拡大も見込まれるため、周年祭りの再開や行事参加など、地域の一員としての関わりが定着することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	階下の小規模多機能事業所と共同で地域住民参加の防災講座等を開催し。会を通じて利用者の方々に関わって頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	階下の地域交流室で会議を開催していますが、飲み物やお菓子などで和やかな雰囲気をつくることで、近隣の方やご家族様からきたんのない意見をいただき、吸い上げた内容を現場で生かすようにしています。	運営推進会議は偶数月に併設事業所と合同開催としています。事業所では活動状況や事故・ひやりはと報告をおこない、一方地域代表からは海拔6メートルという立地から「津波の際は東名まで避難は困難」との貴重な防災情報があがっています。	運営推進会議の定期開催と参加への働きかけにより、さらに活発な意見交換がなされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加をしてくださっており、困難事例にも助言をいただいております。	地域包括支援センターは毎回運営推進会議に出席くださっており、事業所でも議事録を行政担当窓口まで届け、連携を図っています。昨年10月にあった実地指導では、指摘事項の是正を図り、また介護相談員受入れについては今後申し込みの予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催する他、法人の研修もスタッフ全員が受講し、日頃から身体拘束しないケアに取り組んでいます。	指針、マニュアルを整備のうえ、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催しているも、記録及び書面化が未整備です。委員会では、身体拘束廃止及び適正化を内容とするチェックシートで振返りに取り組んでいます。緊急やむを得ない場合の三要件は現在該当者はありません。	身体拘束適正化に関する取組み状況がわかりやすいよう、書面整備のうえファイルを一元化するなどの工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修の必須となっており、スタッフ全員が受講して自覚をしております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方で権利擁護下の方がおられますので実践をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を必ず読み上げて一つ一つ説明をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月状況をご家族に伝えるようにしています。利用者・ご家族からの意見・要望を、申し送り時や運営推進会議にて伝達し、意見交換をおこなっております。	キーパーソンをはじめ家族が県外・市外在住者が多く、面会は概ね月に一度くらいです。変わったことがあれば都度電話で伝え、『葬会だより(法人発行)』と外出レクリエーションの写真を請求書と共に発送、家族への定期的情報としては行事のお知らせに留まっています。	運営推進会議に出席の家族数も限られており、情報共有が電話や面会での口頭に留まっています。万遍なく全ての家族に1ヶ月の様子(最初無理なら2~3ヶ月)が書面で届くよう計られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議においてスタッフとの意見交換をしており、その場で解決するようにしています。	毎月施設会議、ユニット会議を実施、ユニットリーダーが司会を務め、利用者のカンファレンスが大半を占めるものの、環境整備や企画のアイデアもあがっています。他にも、清掃手順が定まっていなかったことから、方法について協議し、見直しをおこなったこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	疑問に思ったことは事前に情報を得て、職員会議を通じて全体の意見交換をして統一した見解にしていく事にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限りスタッフの人数とシフトを考慮して受講できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の同業3施設とは管理者研修や会議を通して毎月交流を持ち、意見交換や勉強会を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで丁寧に関き取りを行い、職員内で情報を共有し、統一した対応ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族の要望や悩みも聞き取り、入居後はご家族にこまめに状況を伝えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントの中で、他のサービスの方がニーズを解決できると判断される場合は、法人内の他サービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や買い物、炊事等できることを協力していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には普段からご本人や施設の状況をこまめに伝えるようにしており、外出や買い物のご支援をいただいたり、ボランティアとして参加していただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で行われるイベントに職員付き添いのものとご利用者様にも参加していただくようにしています。	白いご飯を好まない人には五穀米やふりかけを職員が提案したり、化粧品の銘柄にこだわのお洒落な人とは一緒に買い物に出ています。刺し子や編み物を続ける人には家族が材料を届けてくださるほか、五円玉手芸に取組み、根付を皆にプレゼントしてくれる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格や生活ペースを考慮しながら共用スペースの席を配置することで、話しやすい相手と近くにいられるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内事業所に転居されている方がほとんどなので、出向いた時にはお訪ねして近況をスタッフに伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望は日常的に把握するよう努めています。ご家族が訪ねて来られた時にはご報告をして少しでもご満足していただけるようにしております。	『私の暮らしまとめシート』で一人ひとりを理解し、リズムを掴んでいます。入居の折に作成したシートは、計画作成担当者が年に一度見直しています。拒否が強い人でも、隣に座って状態が落ち着くまで静かに寄り添うなど、個別の時間を作って傾聴している日常があります。	『私の暮らしまとめシート』が引き続き機能していくよう、継続又は広がり(計画作成担当者ではない職員の作成等)への工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで本人やご家族から聞き取りを行う他、日々の申し送りや月1回のカンファレンスを通して経過状況の情報交換をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の担当者を決めて、それぞれが体調を含めた状態や個人ごとの過ごし方を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りで気になった時点で、話し合いをすぐに行い対策を考え、実行して施設会議で検証を行うように努めています。	カンファレンスは毎月の施設会議でおこない、モニタリングと介護計画書の作成は計画作成担当者がおこない、介護支援専門員がチェックとリレーされています。サービス担当者会議は初回と、状態変化の場合におこなうこととしていますが、家族参加がある時、ない時、まちまちです。	介護計画書への職員理解は薄く、今後の指導(勉強会の開催等)が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をこまめにとり、カンファレンスや施設会議で情報を共有しながら介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他事業所と協力し、ニーズに対して柔軟に対応できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣住民から地域の情報を収集し、地域の清掃や運動会等の活動に利用者也参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している訪問医療機関が月2回往診してくれており、診療の立会者が受診記録をとり、医療情報・介護記録・業務日誌に記載し情報共有している。	協力医へ18名全員が変更、月2回の訪問診療を受けています。当日の勤務職員が立ちあい、往診専用ファイルに記録を残して、週3日9～16時勤務の看護師と共に情報共有しています。歯科も訪問を導入、その他の専門医は家族対応でお願いすることとしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報を訪問診療医に伝え、診察に立ち会ったスタッフが診療内容を他職員に伝えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者または計画作成者が立会っています。入院中は様子を見に行き病院との情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2ユニットの職員・訪問看護が協力し、12月にお一人お看取りすることができました。	契約時は『重度化対応・終末期ケア対応指針』に沿って説明のうえ、同意を得ています。今年度は2名を見送っており、24時間体制で駆けつけてくれる医師の指示で手順の不安もなく、落ち着いた対応ができ、職員の意欲と自信に実っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練時において、通報訓練を必ず取り入れて急変時の救急手配を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時を実施する他、管理者が地域の防災訓練に参加しています。前回指摘のあった備蓄食料に関しては、法人内特養の栄養士に相談し、備えるようにしました。	年2回の法定訓練では夜間想定を実施するとともに、地域の訓練の参加も果たしています。本年は消防署の指導を受けて水消火器の使い方を学んだほか、水、缶詰め等を補充し、米30キロを常備、毛布やランタン、懐中電灯も用意して、備蓄内容が向上しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の呼称は「～さん」を原則としており、他の利用者の前ではご家族のことなどプライバシーについての話をしないようにしています。雇用契約の際にも守秘義務における誓約書をとっています。	便秘を心配する職員が耳元で「どう?」と確かめている様子を視認しました。自立している利用者も多く、羞恥心へ配慮し排泄に関することは大きな声で言わないよう日頃から心掛け、気にする人には居室で話しかけているようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から声掛けを行う他、ご利用者からの要望(外出や買い物等)については、接触的に対応するように努めることで、信頼関係を構築しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や散歩・買い物等、できるだけご利用者様の希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛け等の介護や、自室内の環境整備等を行い、ご利用者様ご自分で好きな服を選んでおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯は施設で炊いていますが、他は外部業者から取り寄せて、食形態に合わせて刻んだりミキサーにかけたりしています。好き嫌いがある方には業者への発注の時点で他のメニューに変更しています。	ご飯とみそ汁はユニットで作り、副菜は湯煎で温めたものを配膳していますが、利用者はおしゃべりも動きも主婦健在といった様子で、活気があります。おやつ作りにはパンケーキに生クリームやあんこ、フルーツをトッピングして楽しんだり、団子や芋餅づくりも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の調理業者から届くメニューはカロリー計算がされており、栄養のバランスも考えられています。主食は施設で炊いて、本人の体調や希望に合わせて量を計測して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行う方や、声掛け誘導をして行う方などまちまちですが、全員の方が行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方を含めて排泄チェック表をつけて、排尿排便のペースや量を把握し、必要な方には時間での声掛け誘導を行っています。	法人内の機能訓練指導員が毎月来所、個別運動の指示やクッションのあて方、移動等アドバイスがあります。傾眠状態だった人も手を動かすことができるようになり、起きている時間が増えた事が本人の力となり、日中はトイレで排泄できるよう支援する職員意識に結ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給(牛乳を含む)、ヨーグルトなどを定期的に提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日程は決めてあり、時間については本人の意向をきくようにしています。湯は一人一人に入れ替え清潔な状態で気持ちよく入れるように支援しています。	週2回を目安として、当日「今日は午前に入りますか？午後に入りますか？」と本人に時間を決めてもらっています。「顔が濡れるのがイヤ」という人にはシャンプーハットなど試行錯誤を重ね、一方で楽しみとしては職員との会話や浴剤、お気に入りのシャンプーがあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事等で集団行動をする時以外は、ご自分のペースで過ごされるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の訪問によって薬剤の支援をいただいているので、症状の変化があればその都度報告して早めの対応をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の中には積極的にお手伝いをしていただける方も多く、役割を分担して皆様に取り組んでいただけるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近所の商店での買い物等、日常的に外に出る機会を設けています。遠方への外出は、階下の小規模多機能と協力してレクの一環として実施しています。	冬でもグループ分けして散歩が励行され、帰宅願望の強い人には良い気分転換になっています。少し前までは大型ショッピングモールに買い物に出かけたこともありますが、運転できる職員がいなくなり、年間外出行事の企画は滞っています。	自立の人が多く外出を楽しめる貴重な時でもあるため、工夫して積極的に取入れられるとよいと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を外出や買い物の時に使えるように預かっております。ご利用者の中にはご自身で使いたい方もおられるので、少額をお渡ししご自分の意思で買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から携帯電話を与えられているご利用者様もおられ、欲しいものがあれば電話をされて持ってきていただいたりしています。お手紙を書かれる方は現在はおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの窓側の真ん中には大型テレビを置き、寛げるようにソファを置くなどの配慮をしています。	縁起物のダルマやミニ門松で新年を迎える雰囲気を整うリビングには、2人掛け、3人掛けのソファが並び、食後にゆったりと座って「こどうぞ」と利用者が誘ってくれます。「我が家」として寛ぐ様子から、日頃の安寧が伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事の席はお一人おひとりの居場所を決めてありますが、仲のいい方同士でソファで寛いだり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人の使用していたものをできるだけ持ってきていただき、ご希望通りの居室になるようにしています。その後はご本人の希望に合わせて模様替えのお手伝いをしています。	居室に夫の写真や位牌、数珠を並べて毎朝拝む人は家族の写真を指差し、「これが兄」「これが子どもたち」「これが孫」と自慢そうに説明していただきます。チェスト、プラスチックケース、ミシンが持ち込まれ、鏡台に向かって毎日しっかり化粧をする人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様お一人お一人のペースを守っていけるように、御本人のペースや性格に合わせたグループ分けをして環境を整えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201971		
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		
事業所名	グループホーム おきつの家 Cユニット		
所在地	静岡市清水区興津中町 1134-1		
自己評価作成日	令和元年12月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201971-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度、6月においてお一人の方を当施設で看取りを行いました。ご家族には大変「喜ばれ我々もやりがいがありました。看護師は常駐していないので、ご家族の方で24時間訪問看護ステーションと契約をして頂き常に医師と連絡が取れる状態であれば看取りを今後も取り組んでいきたいと思っています。現在進行形で1名の方がこの状態でおられます。しっかり取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年4月に2ユニット目をオープンし、日勤も配置できるほど体制も落ち着きつつある一方で、管理者は着任1ヶ月に満たず、シフトに入りながら、利用者や職員とコミュニケーションをとって一人ひとりを把握している状況です。現在、理念に基づく具体的な取組みはないため、法人理念をもとに事業所理念を職員と考えていきたいとしています。そんな中で取組んだ看取りは、医師の支えも得て無事お見送りでき、一つ階段を上った感があり、新管理者ともども職員の「自信がついた」との言葉に突っ込んでいます。昨年の周年祭は100名以上が集まってくれたとの地域からの応援を忘れず、新体制のもと、現在中断されている祭り再開が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、管理者を含めすべてのスタッフに提案をしていただき、その上で決定しております。それを基に運営をしていく事で合意をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とは苗や旅行のお土産をもらうような関係を維持しております。近隣の団地の方々による定期的にボランティア参加や、保育園から子供たちの慰問等の交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	階下の小規模多機能事業所と共同で地域住民参加の防災講座等を開催し。会を通じて利用者の方々と関わって頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	階下の地域交流室で会議を開催していますが、飲み物やお菓子などで和やかな雰囲気をつくることで、近隣の方やご家族様からきたんのない意見をいただき、吸い上げた内容を現場で生かすようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が参加をしてくださっており、困難事例にも助言をいただいております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催する他、法人の研修もスタッフ全員が受講し、日頃から身体拘束しないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修の必須となっており、スタッフ全員が受講して自覚をしております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方で権利擁護下の方がおられますので実践をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を必ず読み上げて一つ一つ説明をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月状況をご家族に伝えるようにしています。利用者・ご家族からの意見・要望を、申し送り時や運営推進会議にて伝達し、意見交換をおこなっております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議においてスタッフとの意見交換をしており、その場で解決するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	疑問に思ったことは事前に情報を得て、職員会議を通じて全体の意見交換をして統一した見解にしていく事にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限りスタッフの人数とシフトを考慮して受講できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の同業3施設とは管理者研修や会議を通して毎月交流を持ち、意見交換や勉強会を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで丁寧に取り組みを行い、職員内で情報を共有し、統一した対応ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族の要望や悩みも聞き取り、入居後はご家族にこまめに状況を伝えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントの中で、他のサービスの方がニーズを解決できると判断される場合は、法人内の他サービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や買い物、炊事等できることを協力していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には普段からご本人や施設の状況をこまめに伝えるようにしており、外出や買い物のご支援をいただいたり、ボランティアとして参加していただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で行われるイベントに職員付き添いのもとご利用者様にも参加していただくようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格や生活ペースを考慮しながら共用スペースの席を配置することで、話しやすい相手と近くにいられるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内事業所に転居されている方がほとんどなので、出向いた時にはお訪ねして近況をスタッフに伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望は日常的に把握するよう努めています。ご家族が訪ねて来られた時にはご報告をして少しでもご満足していただけるようにしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで本人やご家族から聞き取りを行う他、日々の申し送りや月1回のカンファレンスを通して経過状況の情報交換をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の担当者を決めて、それぞれが体調を含めた状態や個人ごとの過ごし方を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りで気になった時点で、話し合いをすぐに行い対策を考え、実行して施設会議で検証を行うように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をこまめにとり、カンファレンスや施設会議で情報を共有しながら介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他事業所と協力し、ニーズに対して柔軟に対応できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣住民から地域の情報を収集し、地域の清掃や運動会等の活動に利用者も参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している訪問医療機関が月2回往診してくれており、診療の立会者が受診記録を取り、医療情報・介護記録・業務日誌に記載し情報共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報を訪問診療医に伝え、診察に立ち会ったスタッフが診療内容を他職員に伝えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者または計画作成者が立会っています。入院中は様子を見に行き病院との情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2ユニットの職員・訪問看護が協力し、12月にお一人お看取りすることができました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練時において、通報訓練を必ず取り入れて急変時の救急手配を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時を実施する他、管理者が地域の防災訓練に参加しています。前回指摘のあった備蓄食料に関しては、法人内特養の栄養士に相談し、備えるようにしました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の呼称は「～さん」を原則としており、他の利用者の前ではご家族のことなどプライバシーについての話をしないようにしています。雇用契約の際にも守秘義務における誓約書をとっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から声掛けを行う他、ご利用者からの要望(外出や買い物等)については、接触的に対応するように努めることで、信頼関係を構築しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や散歩・買い物等、できるだけご利用者様の希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛け等の介護や、自室内の環境整備等を行い、ご利用者様をご自分で好きな服を選んでおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯は施設で炊いていますが、他は外部業者から取り寄せて、食形態に合わせて刻んだりミキサーにかけたりしています。好き嫌いがある方には業者への発注の時点で他のメニューに変更しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の調理業者から届くメニューはカロリー計算がされており、栄養のバランスも考えられています。主食は施設で炊いて、本人の体調や希望に合わせて量を計測して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行う方や、声掛け誘導をして行う方などまちまちですが、全員の方が行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方を含めて排泄チェック表をつけて、排尿排便のペースや量を把握し、必要な方には時間での声掛け誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給(牛乳を含む)、ヨーグルトなどを定期的に提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日程は決めてあり、時間については本人の意向をきくようにしています。湯は一人一人に入れ替え清潔な状態で気持ちよく入れるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事等で集団行動をする時以外は、ご自分のペースで過ごされるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の訪問によって薬剤の支援をいただいているので、症状の変化があればその都度報告して早めの対応をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の中には積極的にお手伝いをしていただける方も多く、役割を分担して皆様に取り組んでいただけるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所の商店での買い物等、日常的に外に出る機会を設けています。遠方への外出は、階下の小規模多機能と協力してレクの一環として実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を外出や買い物の時に使えるように預かっております。ご利用者の中にはご自身で使いたい方もおられるので、少額をお渡ししご自分の意思で買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から携帯電話を与えられているご利用者様もおられ、欲しいものがあれば電話をされて持ってきていただいたりしています。お手紙を書かれる方は現在はおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの窓側の真ん中には大型テレビを置き、寛げるようにソファを置くなどの配慮をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事の席はお一人おひとりの居場所を決めてありますが、仲のいい方同士でソファで寛いだり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人の使用していたものをできるだけ持ってきていただき、ご希望通りの居室になるようにしています。その後はご本人の希望に合わせて模様替えのお手伝いをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様お一人お一人のペースを守っていけるように、御本人のペースや性格に合わせたグループ分けをして環境を整えています。		